

<p>1 学校教育目標</p> <p>(1) 教育方針</p> <p>ア 令和 4 年度 ( 2022 年度 ) 県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「義務教育課取組の方向」及び「学校安全・安心推進課取組の重点」を踏まえ、本校の校訓「至誠剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。</p> <p>イ これまで積み上げてきた本校の教育方針を基本とし、中高一貫教育校として高校のスクールミッションや教育目標を踏まえつつ、中高教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす。</p> <p>(2) 教育目標</p> <p>ア 誠実さと奉仕の精神を持ち、高い志を掲げ、他者と協働して集団や社会に貢献できる生徒の育成</p> <p>イ 文武両道に励み、物事に屈しない強い確かな意志と逞しい精神力を身につけた生徒の育成</p> <p>ウ 自ら模範となり主体的に学習や課題解決に取り組む豊かな知性と感性を備えた生徒の育成</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>本年度教育スローガン：夢実現・未来への挑戦 Challenge Your Self-will</p> <p>ア 玉名高等学校附属中学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 教師の授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導</p> <p>ウ 日頃からの教職員間のコミュニケーションによる学校改革の推進</p> <p>エ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などの育成</p> <p>オ 地域・保護者との連携</p> <p>カ 読書活動の推進等、言語環境の整備</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の魅力化	将来の種まきとなる知的体験の充実	各学年で本物に触れる体験を充実する。	1 年生は、地元の施設や人材を活用した地域理解の学習活動などを行う。 2 年生は、修学旅行での京都大学訪問などを実施する。 3 年生は、演劇のワークショップをとおした表現活動などに取り組む。	B	2 年及び 3 年生の修学旅行における京都大学訪問では、大学や学問分野等の事前学習、本校卒の京都大学在籍の学生による講話の実施、大学教授による英語学習の重要性やその方法に関する講義などを行った。その結果、事後のアンケートでは進路や学習において顕著な意欲の向上傾向がみられた。 3 年生の演劇ワークショップは、文科省の事業採択はならなかったものの、英語科による英語劇の取組などを通して、生

						<p>徒の主体的な表現活動の実践を行った。</p> <p>1年生の地域理解の学習は、当初計画していた内容がコロナ感染症の影響により、実施できなかったため、次年度以降の取組として検討したい。</p>
	業務改革・働き方改革	具体的な業務改善・縮減への取組	<p>各分掌・係で複数の時間外勤務縮減のための改善を行う。</p> <p>休日の部活動の地域移行、部活動数の見直し、高校との連携など部活動改革を推進する。</p>	<p>学期毎に振り返りを行い、業務の改善を進めるとともに、次年度に向けた実施要項の略案の作成に取りかかる。</p> <p>部活動について、来年度より実施となる地域への移行の在り方を、近隣の中学校の動向を踏まえつつ、高校との連携も図りながら検討する。また、外部指導者などの人材の活用及び保護者との連携などの視点で部活動改革に取り組む。さらに、部活動数の見直しについても検討する。</p>	B	<p>カリキュラムマネジメントの視点を取り入れた職員研修や行事ごとの反省の共有などを行い、業務改善を進めた。</p> <p>令和5年度より実施予定であった運動部活動の地域移行に向けた職員会議を継続して行ったほか、中高教育一貫校としての部活動における中高の連携の在り方について、プロジェクトチームを立ち上げ、現時点における連携の方法について、研究を行った。年度途中で、文科省等の全国的な動向に変化があったため、部活動数の見直しや地域との連携の在り方については、今後も継続して検討する必要がある。</p>
学力向上	質の高い授業の工夫と実践	将来の学びに通じる授業の実践	<p>質の高い授業を実感できる生徒が9割以上にする。</p>	<p>先取り学習、高校教職員による講座、探究活動や模擬試験、検定等の充実に取り組む。</p>	A	<p>生徒による学校評価アンケートでは、95%以上の生徒が、本校の授業に工夫や質の高さを感じていると回答している。保護者の評価も高く、概ね目</p>

				「指導と評価の一体化」のための評価方法の工夫を行う。ICT 機器を効果的に活用し、個々のペースで学習に取り組むことができるような教材開発に取り組む。		標を達成したと考えてよい。 日頃から職員同士のコミュニケーションが密で、授業内容や評価の基準について綿密に打ち合わせされており、そのことが授業内容や評価に対する満足度につながっていると考える。
	個に応じた学習指導の工夫改善	一人一人に達成感のある学習指導の実践	一人一人に応じた学習指導を実感できる生徒が9割以上にする。	少人数クラスの実践と個々の学力に応じた個別指導の実践に取り組む。	C	個に応じた教育指導の工夫については、生徒・保護者ともに評価が下がっており、この点については課題が残る。今年度は、職員不足等教員側の事情により、数学や英語の習熟度別授業が十分に行うことができなかった。非常に深刻な課題であると認識している。
中高一貫教育	中高6年間を見通した教育活動の充実	中高連携の充実、教育資源の活用	学校行事をはじめ、教科、校務分掌、部活動等における中高の連携を強化する。	教科指導における先取り学習等、指導に関する内容や方法および評価方法について、教科会等で情報を共有し、6年間を通じた指導の在り方を確認する。校務分掌については、生徒指導や進路指導等校務分掌に係る業務内容や基本的な考え方を部会で共有し、相互の	B	数学をはじめとする学習内容の先取り学習の在り方について、各教科内で検討を続けた。指導と評価の方法について、教科会等で高校の教職員に情報提供を行ったり、高校の教育課程の編成と連動した中高6年間の学習指導計画を策定するために、教科会等を通して提案を行ったりした。 校則の見直し、進路指導の充実など、中高の校務分掌間で連携を図り、円滑かつ継続的な指導ができるよう、各分掌部会で検討を行った。 部活動改革では、中高の連携を図るプロジェクトチームを立

				<p>連携を進める。 部活動改革の推進等について、高校と取組状況や課題について情報を共有する機会を設け課題の改善を行う。</p>		<p>ち上げ、連携を行う上での課題やその解決のための方策について研究を行った。</p>
<p>キャリア教育（進路指導）</p>	<p>将来の夢や生き方を考える機会の充実</p>	<p>自身の未来像を描き、大学や職業について考える機会の充実</p>	<p>将来の夢や生き方について考えることができる生徒が9割以上にする。</p>	<p>専門的な職業に従事する人物や、大学関係者など、進路に係る外部講師を招聘し、進路講演会を実施する。 高校進路指導部と連携を図りつつ、卒業生や高校生との交流および高校職員による講話等の進路学習を行う。 生徒が興味を抱いている職業について調べ学習を行う。</p>	B	<p>職業人や著名人からの進路講話を中高で連携して実施した。また、3年生向けに高校の進路指導主事、3学年主任から講話をしていただき、進路や今後の学習の仕方について考えることができた。 2, 3年生では大学訪問を行い、大学教授の講義を受けることができた。京都大学に訪問した際には、本校の卒業生から大学の様子を現地で聞く機会を設けることができた。総合的な探求の時間では、ENGEEDを使った課題解決能力を高める活動や、生徒が興味を持つ職業や大学について調べる学習を行った。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>自主的・自律的に判断・行動できる生徒の育成</p>	<p>様々な教育活動とおした健康的な生活リズムの確立</p>	<p>遅刻ゼロを目指すとともに、教科ではチャイム着席の徹底、また保健指導とおして日常生活のリズムを確立させる。</p>	<p>朝の健康観察を欠かさず行い、学級活動や集会等とおして時間を守ることや、健康の大切さを理解させ、健康的な生活リズムを確立させる。</p>	B	<p>寒くなるにつれ、遅刻する生徒が多くなった。チャイム着席については担当の先生方が準備されているので、チャイムと同時に生徒も準備ができている。</p>

		交通安全意識の高揚及びマナー指導	登下校における自転車の安全な乗り方や、公共交通機関でのマナー等を確立させる。	登校指導を必要に応じで実施する。全校集会や日常指導、学級通信等を通じて交通マナーについて啓発する。	B	今年度は地域からの苦情が一件もなく、特に登下校の様子で問題になることもなかった。公共交通機関の利用マナーについては、定期的に指導していく必要がある。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒会や委員会活動をととした主体性の育成	生徒が主体的、計画的に取り組む生徒会活動を確立させる。	生徒会活動や委員会活動の機会・時間を確保し、内容の充実を図る。	B	生徒会執行部、各委員会を中心となり、生徒が主体的に活動できていた。
		学習と部活動の両立	学習と部活動を両立できる、効率よく、内容が充実した部活動を行う。	年間計画、月毎の計画を作成し、効率よく充実した部活動を行う。	B	陸上部やサッカー一部の活躍が目立った。専門種目でない先生方も、部活動の時間を確保しているので、部員も充実した活動ができています。
人権教育	自他ともに大切にす る人権意識の 涵養	差別や偏見に気づき、その背景を理解しようとする態度の育成	人権教育の充実を実感できる生徒を9割以上にする。	道徳での取組のほか、学級活動における学級旗の製作、人権標語の作成及び人権集会を実施し、生徒が自他の人権について考える機会を設ける。掲示物や日頃の言動など言語環境について整備し、意識を高める。	A	生徒アンケートでは9割を超える生徒が実感できると答えていることや人権作文で全学年で玉名市の代表に選ばれる等から、様々な取り組みの結果であると思われる。今年度は「熊本県人権子ども集会」の映像を全員に視聴させるなど、新しい取り組みもできた。保護者についてはアンケートで8割を切っており、地域や家庭への啓発や情報発信に課題が残る。
	「命を大切に する心」を育む 教育の充実	命の大切さに気づき、自他の命を大切にしようとする態度の育成	命の大切さに気づかせる場面の設定と学びを深める返しの実践	道徳での取組に加え、性教育に係る学習会や福祉体験ボランティア活動を行う。	A	福祉体験ボランティアについては、コロナの影響で実施できなかったが、その他の活動は実施できた。

				<p>防災避難訓練において、緊急時の対応の仕方について、自助と共助の双方の学びを行う。</p> <p>SCや電話相談、SOSミニレターなどについて周知し、SOSを発信できる環境を整備する。</p>		
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	いじめの本質に気づき、いじめのない学級・学校づくりに貢献できる意識の涵養	生徒と関わり、生徒一人ひとりの理解を深める。心のアンケート等の実施と適切な対応を徹底する。	<p>日常の生徒の状況の観察、スコラ手帳等を利用した「生徒の小さな変化や兆し」への目配り気配りを行う。</p> <p>心のアンケートや教育相談をとおして生徒の状況を細かく掌握する。学級旗の作成や人権ボランティア委員会の活動をとおして、「いじめを許さない集団づくり」を行う。</p> <p>スクールサインや相談窓口の周知を行う。</p>	A	<p>教育相談やアンケートは定期的に行うことができた。熊本県版こころのアンケートではいじめ案件について4件上がったがすべてに適切に対応できた。定期的なアンケートではいじめの案件は出てこなかったところが課題として残る。来年度は新たな相談窓口について検討する必要がある。</p>
特別支援教育	教育相談の充実と一人ひとりに応じた支援の充実	生徒理解を深め、個別の支援等の実践	生徒理解の共有、個別の支援体制の確立と実践	引き継ぎ事項等に基づき、特別な支援を要する生徒を把握し、教職員間での生徒理解の共有を行う。	A	<p>個別の支援計画を作成し、個に応じた対応を全職員で対応できた。また、SCとともにケース会議を開き、組織的に対応することもできた。</p>

				<p>教育相談による生徒の困り感の把握や、別室登校等による個に応じた支援などをSC等との連携を含め組織的に行う。</p> <p>1人1台端末を利用し個別のニーズに対応していく。</p>		
学校保健・学校安全	安全な学校づくり及び健康な生活実践の生徒の育成	安全・安心な学習環境の確保と健康的な教育活動の支援	<p>環境衛生検査や安全点検等を実施し怪我等の未然防止に努める。生徒の健康状態・出席状況を把握し、適切に対応する。</p>	<p>定期環境衛生検査や毎月の安全点検を月に1回行い、安全で安心な学校作りをすすめるとともに、学活、保健委員会の活動等をとおして、健康な生徒の育成を図る。健康診断や日々の健康観察に基づき、環境調整や職員連絡会等を利用し、生徒情報を共有し、教職員間で支援等について連携を図る。</p>	B	<p>日常検査や安全点検により、危険個所の早期発見・修繕が行われて、安心・安全に過ごすことができた。</p> <p>日常検査や安全点検により、危険個所の早期発見・修繕が行われて、安心・安全に過ごすことができた。</p> <p>保健委員会が中心となって、生活リズムチェックの集計・考察を行った。学校保健委員会で健康課題である視力低下とメディアの長時間利用についての実態を報告し、校医の先生方や保護者・先生方から具体的なアドバイスをいただいた。メディアについては、12月の親子講演会でメディアの使い方について親子で学びあうことができた。今後、親子で話し合い、実践できるように取り組む機会を設けたい。</p>
		自ら心身の健康保持・増進を行うことのできる力の育成	<p>自身の健康保持や増進について、自己肯定感を持つ生徒が9割以上を</p>	<p>保健体育での学びのほか、生徒保健委員会の啓発や保健だよりを毎月</p>	A	<p>コロナ禍に激減していた運動する機会が、日々の体育や部活動により増えた。また、体育の授業で一人一人が目標を立て授業</p>

			めざす。	発行し健康教育に関する意識を高める。ストレス対処教育の一環として、アングーマネジメントやアサーショントレーニングなどのプログラムを行うとともに、学年レクレーションなどを行い、良好な対人関係の構築の契機とする。		に取り組めたので、体力テストは、前年度より大きく改善された。SCによる「心の健康教育」の授業により、ストレスマネジメントやアサーショントレーニングをワークショップ形式で取り組むことができた。不安な時に呼吸法やマインドフルネスで心を整える等具体的な対応を学び、実践している生徒がいる。課題として、伝え方が悪くて、友達同士のトラブルとなっているので、事例を基に自分ならどのように伝えるか役割演技を取り入れた授業をさせたい。
環境教育	環境について気づき・考え・行動ができる生徒の育成	省エネや環境保全に自主的に取り組む態度の育成	生徒自身で、教室の環境整備に取り組み、環境ボランティア活動やリサイクル活動を企画・実践できる。	生徒会活動をとおして、生徒の意識を高め、SDGsを意識した学校版環境ISOの取組を推進する。日常の清掃活動にも力を入れる。	C	委員会や生徒会が中心となって、清掃活動・花植え等のボランティアが行われた。今後、全体で環境ISOについて考え、取り組みを行いたい。
情報教育	情報リテラシーの涵養	将来に亘って有用な情報リテラシー、情報モラルを身に付けさせる。	学校情報化優良校の認定を目指す。	技術家庭での基礎的な学びをはじめとし、他教科や総合的な学習の時間でICT活用を推進する。生徒1人に1台支給されたChromebookなどを活用し、主体的に自らの学習課題や探究テーマに対して取り組	B	各教科において、Chromebookを活用した課題に取り組ませることが増え、生徒たちの情報収集の能力やプレゼンテーション能力が向上した。また、情報モラル研修会や親子ワークショップでのメディアとのつきあい方講話など、外部の有識者からの話を聞く機会もあり、情報モラル等について自らの事として考え、学ぶことができた。SNSでのトラブルを起こさないためにも、今後もあらゆる場

				む。		面で情報モラルについて学ぶ機会を設定する必要がある。
読書指導	読書による豊かな感性の育成	読書に親しみ、豊かな感性と幅広い知識を身に付ける。	読書の充実及び図書館利用に肯定感を持つ生徒を9割以上にする。	図書委員会の活動(図書紹介、朝読書の啓発、貸出業務、書架整理、POPコンテストへの出品)を推進する。毎学期各クラスで図書館終礼をしたり、図書館だよりを発行したりすることで、生徒の読書活動に関する啓発を行う。読書感想文・感想画の取組や各教科での読書紹介などの取組を行う。	A	図書館の中学生特設コーナーの展示を各学年の図書委員が交代で行い、季節に合わせた読書推薦図書を案内することができた。図書委員が選出したお薦めの本を一つの袋に入れ「本の福袋」と称して貸し出しを行った。借りた時のお楽しみが増し、貸出率の向上につながった。朝読書の前に各クラスで読書の呼びかけ啓発に取り組んだ。図書館終礼は計画どおり実施し、図書館利用・本の貸し出しを勧めた。読書感想文・読書感想画に全員で取り組み、多くの生徒が入選した。
保護者・地域との連携(コミュニティ・スクールなど)	保護者や育友会との連携	各種の通信・学校HP、授業参観等を通じた保護者との連携	学校との連携に肯定感を持つ保護者を9割以上にする。	学級通信の発行、全教職員による「附属中ブログ」の年間60回以上の更新などの学校HPによる情報発信を行うほか、授業参観、学年保護者会等を実施することにより、学校の取組について保護者のみならず地域へ魅力発信を行う。	A	クラス担任による学級通信は、各クラス平均で年間約40回の発行を行い、生徒の取組等について、機を逃さず情報発信を行うことができた。全職員による「附属中ブログ」についても、年間100回に迫る更新数となる見込みで、本校の取組について、広く情報発信を行うことができた。新型コロナ拡大の影響で、当初予定していた授業参観が一部学年で実施できなかった。
	地域との連携、地域への	地域・郷土を理解し、地域に貢献しようとする生徒の育成	地域との連携に肯定感を持つ生徒を9割以上	地域理解(総合的な学習の時間)、職業体験、地域	B	生徒会を中心に有志を募って行った「蛇ヶ谷公園清掃ボランティア」や近隣の幼稚園

	貢献		にする。	ボランティア活動など、積極的に生徒を地域に派遣し、地域の実情にじかに触れることで、地域の資源や人々との関わり大切さについて学ぶ。 災害時の地域との連携や対応マニュアルについて見直しや生徒への周知を行う。		での育児ボランティア体験など、可能な限り生徒を地域に出向かせて、体験活動を行わせた。しかし、コロナによる制約が多く、地域との連携に関する生徒アンケートでは、肯定的意見は82%にとどまり、目標の値にはわずかに届かなかった。
--	----	--	------	--	--	--

#### 4 学校関係者評価

##### 【学校経営】

- ・働き方改革については、本協議会の資料を簡素化することが一助になればと思う。また、学校評価のアンケート項目も多いので、ポイントを絞って厳選するべきだと思う。アンケートの集計結果の表示の仕方は中学校のものは過年度比較ができておりわかりやすく良い。
- ・先生方が元気でなければ、良い教育活動はできないし、地域も元気にならない。本協議会は「地域の光」ともいべき学校や先生方の応援団である。これからも、しっかりとサポートしていく。
- ・学校ホームページもリニューアルされ、ブログの更新も頻繁になされていて、学校の魅力や情報の発信に取り組んでいるのかわかる。

##### 【学力向上】

- ・幅広い学力層の生徒それぞれに、とても丁寧に対応し、着実に成長をサポートしている。
- ・流行と不易を踏まえて新しい教育活動にチャレンジしてほしい。

##### 【中高一貫教育】

- ・附属中学校から玉名高校に進学する生徒とともに、市町村立中学校からの入学生がともに切磋琢磨できる学校づくりに一層努めてほしい。

##### 【キャリア教育（進路指導）】

- ・3年ぶりに、キャリア教育講演会等の本物に触れさせる取組が完全に実施できて、生徒のキャリア形成に成果が出ているようなので、とても喜ばしい。
- ・中学校2年生で京都大学訪問を実施し、キャリア意識の形成を図り、難関大学の合格等を実現している点が素晴らしい。

##### 【生徒指導】

- ・生徒がとても落ち着いて学校生活を送っている様子が見える。引き続き、安心・安全を第一に、充実した教育活動を展開してほしい。
- ・玉名高校の卒業生と触れ合う機会があるが、そのたびに、それぞれがとてもユニークであると感じる。玉名地域には、学校を応援しながらともに生徒を育てようとする環境が整っていると感心している。

##### 【人権教育・いじめの防止等】

- ・先生方が、生徒一人一人を大切にしている教育活動が行われてきたことが生徒・保護者のアンケート結果からうかがえる。今後も継続した取組を期待している。

#### 【学校保健・学校安全・環境教育】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた着実な取組により、感染拡大期においても学級閉鎖等の措置を取る必要がなかったのは素晴らしい。

#### 【情報教育】

- ・学際的な学びを評価することは確かに難しいが、世の中に価値を生み出すためにもとても重要である。ベースとなる論理的思考力や言語能力、科学的思考力等を育む教育活動に一層力を入れてほしい。

#### 【地域連携（コミュニティー・スクール）など】

- ・中高連携だけでなく、高大連携についてもより本質的な在り方を追求していく必要がある。生徒が生涯を通じて学びながらキャリアを形成し続けられるよう支援していかなければならない。
- ・本協議会では、各委員から形式的ではなく、本音の意見が出されるので参加するのがとても楽しみだ。今回もとても有意義な会になったと感じている。
- ・アフターコロナを見据えた職員・保護者・地域との新しいかかわり方を模索する段階に至っていると思う。

#### 【その他全般】

- ・本校の最大の魅力は、全日制、定時制、附属中学校が並置されていること。それぞれの特徴がうまく関わり合い、生徒たちがさらに成長できる学校となるようしっかりサポートしていきたい。

### 5 総合評価

本年度の教育スローガンは、高校の教育スローガン及び昨年度を踏まえ、「夢実現・未来への挑戦 ～Challenge Your Self-will～」とした。

各項目（22項目）の評価はA：8項目、B：11項目、C：2項目、D：0項目という結果であった。また、12月に実施した生徒・保護者・教職員への学校評価アンケート及び学校関係者評価においては、概ね高い評価を得た。

#### 【学校経営】

新型コロナウイルス感染症の流行の影響がある中でも、中高一貫校としての特性を最大限に生かした学校行事など「本物に触れる教育」に取り組むことで魅力化の推進とその情報発信を行った。その結果、昨年度に引き続き、本年度の中学入試の出願倍率が約2倍に及びなどの結果を得ることができた。業務改善・働き方改革について、昨年度まで中止していた行事等も再開されたことに伴い業務が増えたが、情報端末を用いた新しい学びの形を追求し業務改善を進めた。諸般の事情で、一部職員に業務が偏ることもあり、時間外勤務の平均値に大きな改善は見られなかった。

#### 【学力向上】

本校の特徴の一つである、中高6年間を見通したうえで、将来の大学進学以降の学びにつながる「質の高い授業」の実現については、生徒アンケートで95パーセント以上が肯定的な評価をするなど、「先取り学習」や「探究活動」等で充実した取組ができた。しかし、習熟度別の授業展開による個に応じたきめ細やかな教科指導についても、諸般の事情から目標を達成することができず、次年度以降の課題となった。

#### 【キャリア教育】

インターンシップは新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し実施を見送ったが、修学旅行における京都大学訪問（中2は12月、中3は1月）の実施や、2年生による県内の大学訪問など、昨年はできなかった対外的な進路学習が実施できた。また高校と連携した進路講演会や合格体験発表会などの企画も進めることができ、中高6年間を見据えた長期のスパンでの指導の一步を踏み出すことができている。

#### 【生徒指導】

昨年度は実施できなかった本校伝統の体育祭も感染症対策を行うことで実施できた。高校生の取り組む姿勢を間近で見ることが、中学生にとって自らの一つのモデルケースとなり、中学生の取組に対してさらに主体性を高めている効果が見て取れた。校則の改定等は、これまで生徒を交えて取り組んできたことを踏まえ、風紀委員会等を中心に生徒アンケートを実施し、生徒が自らを振り返り、課題解決のための方策を考える場を設けるなど、生徒の主体性の育成にも尽力した。

#### 【人権教育の推進】

中学校の職員相互で、授業や特別活動等の指導に際して、人権教育上の留意点や気づきについて意見を出し合い、日々の実践に反映させた。毎月実施している生徒朝会における「人権宣言」では、生徒が人権宣言を唱和する意味を考えることができるよう、随時、教職員からの語りかけなどの支援を行った。

#### 【いじめの防止等】

「心のアンケート」のほか、月1回を目処に生活アンケートを実施し、いじめの未然防止と早期発見に向けて取り組んだ。また、生徒一人ひとりに生活記録ノート「スコラ手帳」への記

入をさせ、各クラスの担任が班ごとに毎日内容を確認し、生徒の悩みや生活の小さな変化に対する気づきの手立てとしたり、生徒の頑張りを称えることにより自己肯定感等の向上を図ったりした。その結果、いじめの把握・認知・早期対応につなげることができたほか、いじめの未然防止に役立てることができた。

#### 【特別支援教育】

個別の支援計画・指導計画の作成に加え、特別な支援を必要とする生徒や気になる生徒の対応について、日々職員朝会等で情報共有を図った。必要な場合には、スクールカウンセラー等を交えたケース会議を個別に実施したり、継続的な教育相談を行ったりして、生徒の困り感を把握し個に応じた支援の充実を図った。

#### 【学校保健・学校】

3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症対策による生徒の心身の影響について、教職員間で情報共有を行い、健康教育や安全教育を行う上での参考にしたほか、特に配慮を要する生徒については、保護者やスクールカウンセラー等と連携し支援を行った。保健だより等の内容の充実を図るなど、新型コロナウイルス感染症等への対応を含めた健康教育に尽力した。

#### 【環境教育】

生徒会を中心として、使い捨てコンタクトの回収活動や古着リサイクルへの協力などに取り組んだほか、校外清掃活動など、学校版環境ISOの取組を行うことで、持続可能な社会の実現に向けた生徒の意識高揚と日々の実践活動につなげることができた。

#### 【情報教育】

生徒に支給されたChromebookの活用方法を工夫し、生徒がより主体的で協働的な姿勢で授業へ参加できるようにした。感染症による自宅待機の生徒などに対して、教室での授業にオンラインで参加させることで、生徒の学びを止めない取組を行った。

#### 【読書指導】

図書館利用促進のために行っている「図書館終礼」については昨年度十分に行うことができなかったが、本年度は、担当者から各クラスへの事前の確認を徹底した。また図書館での生徒企画などの工夫を行ったことにより、図書の貸し出し冊数の向上につながった。

#### 【保護者・地域との連携】

・学校からの情報発信については、授業参観や公開授業がコロナ禍によりほとんど実施できなかったこともあり、保護者からは「もっと生徒の様子が見たかった」等の声が数多く寄せられた。次年度以降は、公開授業機関の設置を含め授業参観の在り方を検討し、保護者の声に応えたい。各クラス担任による学級通信は各クラス約40回、学校ホームページのブログの更新は約100回に上り、当初の予定を上回り頻繁に情報発信を行うことができた。

・総合型コミュニティー・スクールでは、各委員からの的確な意見により、学校の課題や更なる魅力のについて考える貴重な機会となった。提言を踏まえ、次年度に向けた方策を、中高が連携しつつ、更なる教育活動の充実と発展のために取り組んでいきたい。

## 6 次年度への課題・改善方策

地域で唯一の併設型中高一貫教育校としての本校の役割と周囲からの期待は大きい。それに応えるためには、まず魅力ある授業の実践が最も重要であることは言うまでもない。

教科横断的な授業の実施や生徒の学習到達状況に応じた学習課題の設定をはじめとする、学力向上に向けた取組のための授業改善の推進が必要である。また、魅力ある授業づくりのためには、教職員が授業準備のために使う時間を確保することが必須であり、ICT等を活用した時代のニーズに即した授業づくりを行うことも必要である。

学校評価アンケートでは中高共に6年間を通じた中高一貫教育指導の充実に対する教職員の自己評価は高いとは言えない。今後は各教科・各分掌等における中高それぞれの取り組みについて共通理解を図ると同時に、6年間を見通したシラバスの作成など、中高が協働して6年間で生徒を育成する指導体制を確立する必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大により学校行事や業務の形態が変化し、業務について見直すきっかけとなった。教育的効果について検討し、その教育活動の意義を明確化したうえで、教育活動の精選・統合や活動の形態を変える等の取組をとおして、業務改善と働き方改革の推進につなげたい。

コロナ禍により来校が制限されていた授業参観や公開授業について、形態を工夫するなどして保護者が直接目で見て肌で感じることを増やし、本校の魅力の周知を図るとともに、課題を共有しその解決のためにも尽力できる体制をより充実させていきたい。